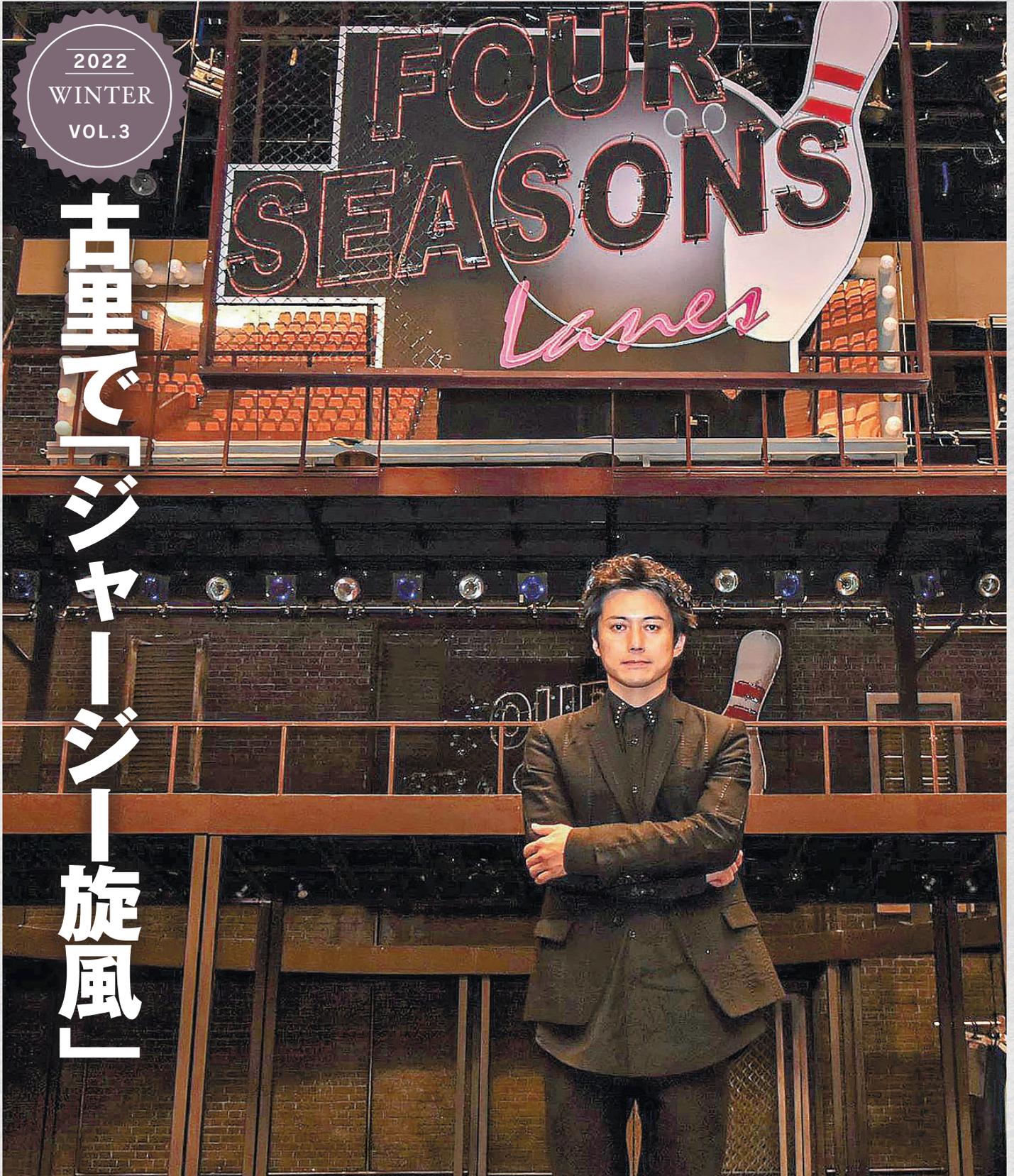


The Mille Has Times

2022
WINTER
VOL.3

古里で「ジャージー旋風」



Interview

私立恵比寿中学

藤田俊太郎さん / 小林歌穂さん 小久保柚乃さん / 中村隼人さん

Pickup!

ミュージカル本番間近

Interview

あきた芸術劇場ミルハスへの「思い」



ミュージカル「ジャージー・ボーイズ」演出
藤田俊太郎さん（秋田市出身）

気鋭の演出家で、あきた芸術劇場ミルハスのアドバイザーを務める藤田俊太郎さん（秋田市出身）が演出するミュージカル「ジャージー・ボーイズ」が12月3、4の両日、ミルハスの大ホールで上演された。藤田さんは「今年一番の勝負だと思って全力を注いだ」と強調。「お客さまが非常に興奮しているのが分かったので、多くの方にとって満ち足りた公演になったのではないかと感じた」と振り返った。藤田さんに、今回の公演やミルハスへの思いを聞いた。

劇場の活性化に意欲



2022年10月「ジャージー・ボーイズ」日生劇場公演より 写真提供・東宝演劇部

ミルハス初公演 特性踏まえ工夫



今回の公演やミルハスの今後について語った藤田さん

ふじた・しゅんたろう

1980年4月24日、秋田市生まれ。2005年から2015年まで蛭川幸雄作品に演出助手として関わる。演出作品に「ジャージー・ボーイズ」「天保十二年のシエクシア」「NINE」など。読売演劇大賞の最優秀作品賞、優秀演出家賞（2017年）、優秀作品賞、最優秀演出家賞（2021年）など受賞。

「ミルハスの大ホールで「ジャージー・ボーイズ」の上演を終えた。

ミュージカルは歌と踊り、芝居の三つをどう届けるかが問われる。ミルハスの場合、ものすごく響きが良く、歌が心地よく届くことが分かった。踊りに関しては照明の位置、劇場のデザインが素晴らしいので、キャストが美しく映え、より大きな躍動感を持つ。芝居については、せりふが響き過ぎないように音響チームが工夫してくれた。歌、踊り、芝居を融和して届けられ、お客さまとの一体感を生む劇場だと認識した。ジャージー・ボーイズはコーラスグループ「ザ・フォー・シーズンズ」の4人が客席に語りかけるスタイル

で、お客さまが彼らを応援する当事者になるという仕掛けをしており、一体感という観点でもミルハスと親和性があると思った。ミルハスが、ミュージカルもい形形で届けられるということが証明できたし、それは劇場にとって大きいのではないか。

秋田のお客さまは熱くて、普段の公演と拍手の数が全然違った。2018年の大館公演はカンパニーの中で伝説となっているが、それに並ぶような公演になった。

入念にリハーサル

「上演に当たり心掛けたことは、（東京の日生劇場から始まった2022年

公演で）2千人規模の劇場は初めてだったので、入念にリハーサルを行った。残響を考慮して、キャストにせりふを少しはつきり言ってくださいと伝えた。あとは音響チームとのコラボレーション。スタッフ、キャストと一緒に劇場の特性を探り、目指したところに着地できたと思う。

今回、照明や美術などを工夫して「ミルハススペシャル」を結構仕込んだ。（客席天井の）浮雲に照明を当てて不思議な明かりにした。セットの鏡の角度を1階席の一番前から2階席の一番奥、2階席の一番奥から1階席の一番前が見えるようにし、客席を一体化する試みもした。ミラーボールの位置や光り方も変えた。

「カーテンコールで舞台上がった時にどんな景色が見えたか。

カンパニーの皆さんが呼び込んでくれてうれしかった。舞台上立つと客席までの距離が近く、2階席の顔もはっきり見えた。お客さまが非常に興奮しているのが分かったので、多くの方にとって満ち足りた公演になったのではないかと感じた。

言葉と経験が財産

「今回の公演は、子どもたちに芸術鑑賞機会を提供する文化庁の事業に選ばれた。

中高生の皆さんと作品をつないでもらい感謝しかない。若い俳優と仕事することも多いが、いい感性を持っているし、いろんなことを考えているとを感じる。未来の文化をつくるのは若い皆さんなので、何か感じてもらえたならうれしい。ぜひ感想を聞かせてほしい。

「蛭川幸雄さんの作品に演出助手として関わった。蛭川さんから学んだことは、

2005年から2015年まで助手を務め、演劇のノウハウを全て教わった。中でも財

産になっているのが言葉と経験。蛭川さんは個を大事にし、キャストやスタッフに対して同じことを伝える場合も100人いれば100通りの言い方をしていた。そうしないと人には伝わらない。経験とは、全国の劇場をたくさん知ったこと。首都圏で舞台が開けると蛭川さんは現場を一時離れる。その後の全国公演には助手がつき、各劇場に合わせて蛭川さんの演出を落とし込む責任の一端を負った。たくさん失敗しながら、いろんな劇場の特性を知ることができた。

全力注いだ勝負に

「演出家として目覚ましい活躍をしている。満足感はない。これでいいと思った時は、演出家として最後の日になる。

今は一緒に作品をつくりたいと思える人にたくさん出会っているが、公演を喜んでくれるお客さまがいなくなれば、その環境はなくなっていく。日々勝負だ。ミルハスで初めて演出する今回の公演は、今年一番の勝負だと思って全力を注いだ。

「ミルハスのアドバイザーを務めている。どんな劇場になってほしいか。

既に県民市民の憩いの場であり、交流の場になっていると思う。それがずっと続いてほしい。

僕自身としては自分の演出作品を上演し続けたい。中ホール、小ホールにも作品を持ってきたい。いい作品はお客さまを育て、楽しい作品は元気にする。「またこんな作品が見たいね」となり、ミルハスが活性化する。作品を通じて東北の劇場といい関係を築きたい。ミルハスから東北の文化や劇場を盛り上げたい。

「故郷・秋田に強い思い入れを持っているように見える。藤田さんにとって秋田とは、

秋田で生まれ、人生の半分を過ごした。自分のルーツであり、大切な仲間もたくさんいる古里が好きだ。演出家という仕事をする中、古里とどう交流、交錯、共鳴できるかが、僕の人生にとって深い意味を持っている。

小林歌穂さん 小久保柚乃さん 私立恵比寿中学

メジャーデビュー10周年を迎えた私立恵比寿中学(通称・エビ中)のコンサート「私立恵比寿中学秋田分校～お待たせしました美の国感謝祭～」が11月26日、ミルハスの大ホールで開かれた。エビ中メンバーが、地元の民謡歌手などと共演する秋田分校は2015年にスタート。新型コロナウイルスの影響で2020年は中止、今年は3年ぶりに共にステージに立った。秋田分校生徒会長の小林歌穂さん、小久保柚乃さんに秋田分校への思いや今後の活動について聞いた。

—昨年の秋田分校開催時のインタビューでミルハスでの公演に意欲を見せていた。

小林 早速、有言実行できた。ミルハスが建つ前にあった県民会館で秋田分校を開催した時の思い出がよみがえり、会場に到着するまでに「ここ通ったね」「覚えてる」といった会話をメンバーで交わした。

—柏木ひなたさんが「転校、する直前の貴重なライブになった。」

小林 ひなちゃんが転校するまでに来ることができて良かった。秋田の皆さんにはお世話になっているので、見てもらえてうれしい。

—小久保さんにとっては昨年に続く2回目の秋田分校。

小久保 歌って踊る長いライブは昨年の秋田分校が初めてで、たくさんの方を学び、成長できた。今年も成長できたらと思って臨んだ。

—秋田分校では民謡歌手やご当地ヒーローなど、地元で活躍する多彩なメンバーと共演している。

小林 皆さん個性豊かで、いつも新鮮な気

持ちでステージに立っている。普段のツアーや夏の大きなイベントとは全く違う色を出せるので楽しい。

小久保 秋田分校でしか交われない人がある。貴重な経験をさせてもらっている。

—ミルハスの印象は。

小林 きれいでおしゃれ。秋田の伝統工芸があり、歴史が感じられる点もすてき。大ホールは客席の壁がレンガみたいでかわいい。ステージも広い。

小久保 総合案内から秋田のいろいろな文化が敷き詰められていておしゃれ。大ホールの2階席からはステージ全体がすごく見やすかった。座席もふかふか。ここでたくさんライブをやりたい。

—今年メジャーデビュー10周年を迎え、精力的に活動している。改めて思うことは。

小林 今年はとにかくライブが多いのだが、47都道府県を回るツアーをやりたい。

アニバーサリーアルバムは深みを増したお姉さんメンバーの歌声と、昨年入ったメンバーのフレッシュさが混じり合っている。そう

秋田分校で 地元民謡歌手らとコラボ



私立恵比寿中学秋田分校生徒会長の小林歌穂さん(左)と、2度目の秋田分校出演となった小久保柚乃さん

こばやし・かほ

2000年6月12日生まれ。2014年に私立恵比寿中学に加入。出席番号11番。特技はゆるいイラストを描くこと。

こくぼ・ゆの

2007年3月20日生まれ。2021年に私立恵比寿中学に加入。出席番号14番。特技は竹馬、長距離走。

違う色出せて楽しい

したアルバムを楽しめるのも長く続いているからこそ。そんなグループにいられることがうれしい。

小久保 エビ中結成(メジャーデビュー前の2009年)は私が2歳の時で、小学生の時にエビ中を知った。歴史のあるグループに入れてうれしい。

—これまで支えてくれたファンへの思いは。

小林 (2014年に)私が加入する前からエビ中を応援してくれる方がいれば、私と「同期、のファンもいるし、昨年3人が入って興味を持った方などもある。ファンでも歴史が感じられ、本当にありがたい。

—12月に新メンバーが加入し、新たな一歩を踏み出すことになる。今後の目標は。

小林 ひなちゃんが卒業して、新たに(中学生の)2人が入ると見栄えが全然違うかなと思っている。若いメンバーが輝く曲があれば、お姉さんたちが輝く曲もあると思うので期待してほしい。

小久保 メンバーの年齢が幅広い分、いろんな世代の方に見てもらえるのではないかな。幅広いファンをつかんでいきたい。



今年の秋田分校はミルハス大ホールで、エビ中メンバーや地元・秋田の出演者が熱いステージを繰り広げた(撮影・鈴木竜典)

観たことのない 舞台に

来年3月公演「巖流島」 佐々木小次郎役

中村隼人さん(歌舞伎俳優)

宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘を描く舞台「巖流島」が来年3月4日、ミルハスの大ホールで上演される。小次郎役の歌舞伎俳優中村隼人さんが11月14日、ミルハスを訪れて会場を見学した。「見たことのない舞台になると思う」と語る隼人さん。意気込みやミルハスの印象を聞いた。

—今回は新解釈、新設定の令和版「巖流島」(脚本マキノノゾミさん、演出堤幸彦さん)。どんな舞台になるか。

幕開けから小次郎と武蔵が出会い、ある種仲間・同志になるのだが、そこでどちらが強いのかと。だんだん熱が上がっていき、「いつかこいつとやってみたい」という気持ちが最後の決闘につながるよう描かれる。

—巖流島の決闘は小説やドラマ、映画でたびたび取り上げられてきた。

(1961~1965年の映画5部作で)大叔父の萬屋錦之介さん(武蔵役)と高倉健さん(小次郎役)が演じたイメージなどがあると思う。50年以上経って、自分に(錦之介さんが演じた武蔵の)ライバル役のお話を頂けたことに不思議な縁を感じる。

—小次郎役のオファーが届いた時の率直な感想は。また、小次郎を演じる上で大切にしたいことは何か。

(オファーがあると)聞いた時からすごく楽しみにしていた。今の自分には静かな闘志を燃やす小次郎が合うのではないかと。台本を読んだ印象だと、武蔵はそんなに(感情を)表に出さない。だからこそ小次郎が意識している、心が通じ合っているという芝居をすることが大事。どんどん距離が縮まっていく様子を分かりやすいよ



ミルハスを訪れ、公演会場となる大ホールを見学した中村隼人さん

なかむら・はやと

1993年11月30日生まれ。父は2代目中村錦之助さん。2002年に初舞台を踏み、以後さまざまな舞台を務めている。歌舞伎にとどまらずドラマやCMにも出演するなど、幅広く活躍している。

うに表現したい。

—武蔵役の横浜流星さんとは初共演か。

共演は初めて。とても男臭い雰囲気を持っていて、武骨な感じ。体格の違いはあるが、線は彼の方が太い印象を受けた。それが武蔵、小次郎という役にも合うと思う。

—これまで歌舞伎以外の舞台経験は。どんな思いで歌舞伎と違う舞台に臨むか。

チラシに大きく載せていただくことは今回が初めて。歌舞伎と違うとはいえ時代劇なので、これまでの経験は絶対に生きると思う。まずは所作。刀の持ち方、置き方、着物の着方、立ち座りといったところに役の人生が出る。息を吸うように所作ができるのは、歌舞伎俳優ならではの武器。巖流島には決闘シーンが欠かせないが、立ち回りも歌舞伎での経験が大きな自信にはなっている。立ち回りは類を見ない迫力になると思うし、激しくしたい。

—ミルハスの印象は。

できたばかりだが伝統が感じられ、秋田の魅力が全面的に出ている。その劇場で新解釈の舞台ができるということは、とても光栄なこと。時代物と相性がすごくいいと思う。大ホールは音響が素晴らしい。音の響き方によって、同じキャラ、広さでも迫力は全く変わる。

—これまで秋田を訪れたことはあるか。

歌舞伎の公演で康楽館(小坂町)に何度か。康楽館は古くからある芝居小屋なので(観客と)とても距離が近く、見えを切った時など反応がすごかった。昼夜満席で、演劇を受け入れてくださる土地だと感じた。

—県民、また東北の皆さんにメッセージを。

今、最前線を走っている横浜流星君と堤幸彦さん、マキノノゾミさんというメンバーと共にお届けする。少しでも作品の力になれるように頑張る。観たことのない舞台になると思うので、ぜひ足を運んでほしい。

※観覧チケットは完売しました。



新解釈、新設定の舞台「巖流島」。武蔵役を横浜流星さん(左)、小次郎役を隼人さんが演じる

2023年 1月・2月・3月

公演・イベント情報

本番間近 稽古に熱

来年1月14、15日に中ホールで上演

県民・市民参加型ミュージカル「櫂の記憶・蓮のトキメキ」が来年1月14、15の両日、ミルハスの中ホールで上演される。本番が間近に近づき、大詰めを迎えた稽古は一段と熱を帯びている。

ミュージカルはミルハス開館記念事業の一つで、3世代にわたり県民会館に親しんできた家族の物語。芸術文化の力で困難を乗り越えようとする姿を描く。公募に応じた県内の10~60代の45人が出演する。脚本を劇団わらび座の栗城宏さん(仙北市)、演出は劇団渡辺源四郎商店主の畑澤聖悟さん(五城目町出身、青森市)が担当する。

昨年12月のワークショップを皮切りに演技や歌、ダンスを練習。10月からは月6回のペースで取り組んでいる。11月27日には秋田

市のセリオンプラザで初めて通し稽古を行い、課題を確認した。

開演時間は初日の14日が午後6時、最終日の15日は同2時。両日とも開演1時間前に開場する。チケットは全席自由で一般2千円、高校生以下1千円(いずれも税込み)。当日券各500円増。ミルハスの公式ウェブサイトと管理事務所で購入できるほか、電話予約も可能(最寄りのセブンイレブンで発券)。お問い合わせ、チケット予約・購入はミルハステル018・838・5822 URL https://akiat.jp



11月27日、秋田市のセリオンプラザで行われた初めての通し稽古の様子。本番が迫り、稽古は仕上げ段階に入っている

櫂の記憶・蓮のトキメキ

県民・市民参加型ミュージカル

あきた芸術劇場ミルハス開館記念事業

KEYAKI NO KIOKU・HASU NO TOKIMEKI

見応えある舞台に

演出 畑澤 聖悟さん (劇団渡辺源四郎商店主宰)



今回のような企画で、こんなに人数が集まるのは稀有なこと。出演者全員に見せ場があり、達成感を得られるような演出を心掛けています。心を一つに取り組んできた姿を見せたい。出演者のモチベーションの高さを感じており、それをクオリティーに転化させたい。エンターテインメントとして見応えがあるものにしたいと考えています。ご期待ください。

想像以上の歌期待

音楽監督 渡部 絢也さん (作編曲家・秋田市)



歌詞の伝わる楽曲作りにこだわりました。出演者にとっては難しいと感じる曲が多いかもしれませんが、想像している以上の歌を期待しています。稽古では、それぞれの役の立場で感情を乗せて歌うこと、お客さまに歌詞を伝えることに主眼を置いています。ミュージカルの音楽監督を務めるのは2作目。私自身も参加者と一緒に成長させてもらっています。

思いきり楽しんで

振り付け 新海絵理子さん (振付家・東京都)



みなさん一生懸命で自主練習の跡もうかがえます。だいぶ上達し、振りもそろってきました。とても嬉しくやり甲斐を感じています。現状に満足せず、これまで積み上げてきた事を信じてラストパートにかけてください。大事なことは、舞台上に立ち観客の前でパフォーマンスをしている姿をイメージすること。そして、本番では思い切り楽しんで気持ち良く。

1/13(金)

●大ホール
フジコ・ヘミング
N響メンバーと仲間たち
秋田公演



18:30開演
【お問い合わせ】
サンライズプロモーション東京
TEL:0570-00-3337 (平日12:00~15:00)

1/14(土)・15(日)

●中ホール
県民・市民参加型
ミュージカル
「櫂の記憶・蓮のトキメキ」



14日 18:00 / 15日 14:00開演
【お問い合わせ】
あきた芸術劇場ミルハス TEL:018-838-5822

1/15(日)

●大ホール
仮面ライダースーパーライブ
2023



①10:30 / ②14:00開演
【お問い合わせ】
AAB秋田朝日放送事業部
TEL:018-888-1505 (平日9:00~17:30)

1/29(日)

●大ホール
STAND UP!
CLASSIC in AKITA



15:00開演
【お問い合わせ】
AAB秋田朝日放送事業部
TEL:018-888-1505 (平日9:00~17:30)

2/3(金)

●中ホール
清水ミチコ リサイタル
~カニカマのタベ~



18:00開演
【お問い合わせ】
キョードー東北 TEL:022-217-7788
(平日13:00~16:00、土10:00~12:00 ※祝日除く)

2/4(土)

●大ホール
めざましクラシックス
in 秋田 vol.21



15:00開演
【お問い合わせ】
AKT秋田テレビ事業部
TEL:018-866-8030 (平日10:00~17:00)

2/23(木・祝)・24(金)

●大ホール
高橋 優 LIVE TOUR
2022-2023
「ReLOVE&RePEACE
~ReUNION 前編~」



23日 17:30 / 24日 18:30開演
【お問い合わせ】
キョードー東北 TEL:022-217-7788
(平日13:00~16:00、土10:00~12:00 ※祝日除く)

2/25(土)

●大ホール
あきた芸術劇場ミルハス開館記念
MAKI OHGURO
30th Anniversary
Best Live Tour 2022-23



※チケット完売
17:00開演
【お問い合わせ】
ノースロードミュージック秋田 TEL:018-833-7100
(月・水・金 ※祝日を除く 11:00~16:00)

3/4(土)

●大ホール
舞台「巖流島」



※チケット完売
①11:30 / ②16:30開演
【お問い合わせ】
公式ホームページをご覧ください
https://ganryujima-ntv.jp/

3/5(日)

●大ホール
五木ひろし
コンサート2023



13:00開演
【お問い合わせ】
秋田冠新報社企画事業部 TEL:018-888-1857

3/11(土)

●中ホール
ザ・クロマニヨンズ
ツアー MOUNTAIN
BANANA 2023



18:30開演
【お問い合わせ】
ノースロードミュージック秋田 TEL:018-833-7100
(月・水・金 ※祝日を除く 11:00~16:00)

3/12(日)

●大ホール
GLAY
HIGHCOMMUNICATIONS
TOUR 2023



18:00開演
【お問い合わせ】
キョードー東北 TEL:022-217-7788
(平日13:00~16:00、土10:00~12:00 ※祝日除く)

3/17(金)

●大ホール
大和証券グループ presents
辻井伸行
日本ツアー-2022/23
秋田公演



※チケット完売
18:30開演
【お問い合わせ】
AKT秋田テレビ事業部
TEL:018-866-8030 (平日10:00~17:00)

3/26(日)

●大ホール
大成建設Presents
読売日本交響楽団
創立60周年記念
秋田特別演奏会



17:30開演
【お問い合わせ】
読売チケットセンター
TEL:0570-00-4390 (10:00~18:00)

3/27(月)

●大ホール
あきた芸術劇場ミルハス
グランドオープン記念
十三代目市川團十郎白猿
襲名披露巡業 秋田公演



13:00開演
【お問い合わせ】
AKT秋田テレビ事業部
TEL:018-866-8030 (平日10:00~17:00)

※ 公演情報は12月5日時点のものです。誌面の都合上、全ての公演・イベントは掲載しておりませんので、ご了承ください。また、公演・イベントによっては、その後チケットが完売している場合などがあります。また、お問い合わせ先は年末年始に休業している場合があります。詳細は各お問い合わせ先、またはミルハスウェブサイトでご確認ください。

Mille Has information

練習室、創作室、研修室をご利用ください

ミルハス1階には県民・秋田市民の身近な文化芸術活動の場となる練習室(9室)、創作室(5室)、研修室(3室)があります。楽器・ダンス・合唱の練習、芸術作品の制作・展示、会議や打ち合わせなどに幅広く対応します。

利用に際しては、利用者登録後に希望の施設・日時などを申請します。ミルハス公式ウェブサイトからシステムを通じて手続きできるほか、所定の用紙を郵送、FAX、メール、持参して申し込むこともできます。

各施設の利用時間は午前9時から午後11時。予約は研修室、創作室が利用希望日の2カ月前の月の初日から、練習室は1カ月前の月の初日から受け付けます。料金は施設や時間帯によって異なります。

詳しくはミルハスの公式ウェブサイト(URL <https://akiat.jp>)をご覧ください。電話(TEL018-838-5822)でお問い合わせください。

施設	用途・設備	定員	
練習室	1	合唱練習など	35人
	3	アップライトピアノを設置	10人
	2		30人
	4	バンド練習など	6人
	5	ドラムセット、ギター・ベースアンプ、キーボードを常設	8人
	9		6人
	6	ダンス練習など	12人
	7	ダンスや演劇などに対応。壁には大きな鏡を設置。 ※3室ともリノリウム床を傷つけないよう内履き持参となります。7はアップライトピアノを設置	16人
創作室	1		10人
	2	作品制作・展示などに活用できる。各室の間の仕切りを取り外してつなげることが可能。廊下側の仕切りを取り外してオープンスペースとしての利用もできる	8人
	3		12人
	4	4、5両室とも和室。茶道・華道・伝統芸能の講習会などに利用できる	8人
	5		6人
研修室	1		各8人
	2	各種研修会や会議などに最適なスペース。プロジェクターやスクリーン表示に対応。2と3の間の仕切りは取り外し可能で、両室をつなげることができる	
	3		

※定員はいずれも目安

千秋sensyu-小径komichi



人間関係が希薄になった。他人に関心を示さない人が増えた。現代社会を象徴する表現の一つとしてよく耳にする。私たちの暮らしは豊かになり、便利になった。ただ一方で、失ったものもある▼世の中、まだ捨てたもんじゃ無いと思うことがあった。あるイベントに訪れた90

代の女性がエントランスホールでバランスを崩し、転倒した。そこで適切な初期対応してくれたのが、たまたま同じイベントを見に来ていた女性だった▼聞けば、学校の養護教諭をしているとのこと。大事を取って、救急車を呼んだ。転倒した女性は一人暮らしで不安そうな表情をみせると、件の女性が「私も同乗しましょう」と病院まで同行してくれた▼それからおよそ4時間後。「レントゲン撮りましたが、骨などに異常はありませんでした」と付き添った女性からミルハス事務所に連絡が入った。スタッフ一同、安どしたことは言うまでもない▼たまたま劇場内にいたことで、見ず知らずの人のために救急車に同乗、診察まで付き添

うなんてなかなかできることではない。イベント後の予定もあっただろう。それをつぶしてまで、付き添ってくれたことには本当に頭の下がる思いである。残念なことに、付き添ってくれた女性の苗字は聞いたものの、具体的な勤務先、フルネームは聞きそびれてしまった。慌てていたとはいえ、後悔するばかりだが、この欄を借りて感謝申し上げたい▼大勢の人が訪れる劇場では、思わぬことに見舞われることがある。ミルハススタッフだけでは残念ながら手に負えないこともある。安全安心できる劇場へ、いろいろな場面で来館者の皆さんに助けをいただくことがあると思います。その際はどうかお力をお貸し願います。



あきた芸術劇場
Akita Arts Theatre
ミルハス

<発行>あきた芸術劇場ミルハス
〒010-0875 秋田市千秋明徳町2番52号
TEL.018-838-5822 FAX.018-838-5825
E-mail/info@akiat.jp <https://akiat.jp>

